



研究だより 第49号

研究主題

共に学びを進め合う子供の育成 (1年次)

～自己調整する方法の習得を目指す授業づくり～



ごあいさつ

校長

かたおか もとこ
片岡 元子

副校長

やまじ あきよ
山路 晃代

春陽の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

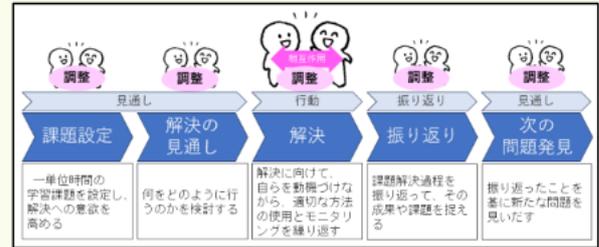
「自ら学びを進める子供とはどういう姿なのか」を問い続けた2年間。学習の主体者である子供がよりよい学習の進め方を考え、意欲的に取り組む姿が見られた一方、話し合いを進められなかったり、困ったときに助けを求められなかったりするなど、他者との適切な関わり方に関する課題も見付かりました。自己調整する方法を習得するためには、他者の存在は大きく、重要です。そこで、本年度は、「共調整」をキーワードに研究を進めて参りました。友達、教師などと関わりながら、共に学ぶ楽しさやその意義を感じられるようにするにはどのような手立てが有効かを探るために、本年度は23本の研究授業を行い、検証して参りました。来年度の研究発表会では、全ての子供たちが「友達と学ぶことで、考えが深まった」と感じている姿を見ていただけるように、今後も全職員で研鑽を積んで参りますので、引き続きご指導・ご助言をいただきますようお願いいたします。

研究の概要

共に学びを進め合う子供の育成（1年次） ～自己調整する方法の習得を目指す授業づくり～

1 研究主題

現代の予測困難な社会において、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働して課題を解決する力の育成は喫緊の課題です。そのため、本研究では、目指す子供の姿を「全員の課題解決を目指して、見方・考え方を働かせながら、学びを進めることを他者と共に繰り返している姿」と定義しました。この「学びを進める」とは、課題設定や解決といった学習過程を自ら進めることを指します。また、「他者と共に」とは、単なる交流活動に留まらず、教師や友達などの他者との相互作用（共調整）を指しており、それによって、個の学びを促進し、資質・能力の伸長を図ることを目指しています。



他者と共に進める学習過程

2 研究副主題

上記のような子供を育てるためには、どのように課題を設定するとよいのか、どのように解決の見通しをもつとよいのかなどといった学習を進める方法の習得が必要であると考えました。そこで、学習過程を進めるための具体的な方法を「自己調整する方法」と定義し、その習得を目指す授業づくりを目指しています。「自己調整する方法」とは、例えば、「これまでに学習したこととの違いを見付ける」という課題を設定する方法や「複数の意見や結果から考える」という解決する方法などを指します。

3 自己調整する方法を他者と共に習得するための手立て

自己調整する方法を習得する過程において、共調整できるようにすることで、方法の習得を促すことができると考え、以下の三つの手立てを行っています。

(1) 方法の習得の段階に合わせて手立てを変えること

方法の習得に向けて、方法やそのよさを知る「認知」、他者や掲示物などをきっかけに方法を思い出す「想起」、状況に応じて方法を使う「習得」の三つの段階を想定しています。子供の段階の把握を基に、「認知」段階では方法やその手順の教示を行い、「想起」段階では方法を使っている友達への注目を促すなどして、方法の習得の段階に合わせた手立てを行います。

(2) 方法を使いやすくすること

方法を使う際の教具や場を工夫することで、方法を使いやすくなるようにし、方法を使う経験を保障しています。その際、他者と関わる必要感を生む活動を設定したり、他者と関わりやすい環境を整えたりするなどの手立てを行うことで、より方法を使いやすくなるように工夫しています。

(3) 方法のよさを感じられるようにすること

教師が「複数の結果を比べた（方法の使用）から、共通点が見付かった（成果）のだね」というように、方法の使用と成果を結び付けて価値付けることで、方法を主体的に使っていかうとする意欲を高められるようにしています。

第1学年国語科「う〜んと、こうしよう！みんなで読もう！紙芝居 ～『おおきなかぶ』～」

学習指導者 東 泰右 ・ 支援員 林 麻衣子

写真を基に、紙芝居の読み聞かせをしてもらった経験を想起しました。絵があることで場面の様子が伝わりやすく、これまでに経験した音読の工夫も生かせるという紙芝居のよさや、友達と協力する楽しさを共有した上で、「友達と一緒に、『おおきなかぶ』の紙芝居を発表しよう」という目標を設定しました。発表する相手を自分で選択し、目標達成への意欲をさらに高めていました。

『おおきなかぶ』の絵をどこでめくるとよいのかな

【見通し】

まず、単元の目標と、前時に見いだした「次にやりたいこと」を確認しました。その中の「絵をめくる場所を決める」に関して、教師と支援員による紙芝居のモデルを見て気付いたことを共有しました。モデルのようなめくり方では、絵と文章のまとまりが対応していないことに気づき、どこで絵をめくればよいか考える必要性を再確認して、課題を設定しました。その後、ペア活動の手順と「友達の技（協働）」を使うよさを確認し、「読みの技（解決方法の手掛かり）」から使えるものを選んで活動の見通しをもちました。



【行動】

教科書の挿絵を基にした5枚の絵カードと本文シートを用いながら、絵をめくる場所についてペアで考えていきました。子供たちは、「ここでおばあさんが出てきているから、ここからが②番の絵じゃないかな」などと、絵と文をつなぎながら、絵をめくる場所を決めていきました。全体交流では、ペアで悩んだところについては、それぞれの考えを伝え合いました。話し合いの途中で悩んだ時には、実際に動作化を交えながら、絵と文のつながりについて考えていきました。



【振り返り・見通し】

今日使った「読みの技」と「友達の技」を振り返る時間には、手元や掲示物にある技の一覧を確認しながら、自分の成長を捉えていきました。

その後、教師の問いかけや掲示物への注目をきっかけに、「ゴールに向けてまだできていないことを探す」という「次の問題を発見する」方法を想起し、次にやりたいことを考えていきました。中には、「まだ、めくる場所がちゃんと決まっていないからもう少しやりたい」などと、自らの学びを調整している姿も見られました。

①どのわざがつかえたかな？		②つぎにやりたいことは見つかったかな？	
よみのわざ	ともだちのわざ	みつかったかな？	みつかったかな？
① ② ③ ④ 5・6・7	1 ② ③ ④	☹️	😊
① ② ③ ④ 5・6・7	① 2・3・4	☹️	😊

成果と課題

○これまでに見いだした問題や教師のモデルを基に、必要感のある課題を設定することができていた。「次の問題発見」の場面では、まだできていないことを探すという方法が定着しており、それぞれが次にやりたいことを考えられていた。
▲絵を「めくる」という言葉の曖昧さによって、混乱が生じていた。めくる基準についてしっかり確認した上で活動に入るとよかった。低学年ということもあり、言葉だけで考えることは難しい。もっと動作化を取り入れていきたい。

第3学年国語科「本を読みたくなるポップを作ろう ～『ワニのおじいさんのたから物』～」

学習指導者 岡根 平

前単元『図書館に行こう』の学習で、図書室の利用者が選書で悩んでいることを司書教諭から聞いた子供たちは、「自分が選んだ本を読みたくなるようなポップを作ろう」という単元の目標を設定しました。そして、ポップ作りに必要なことを話し合い、『ワニのおじいさんのたから物』で学習したことを基に、自分たちが選んだ本でポップを作っていくという学習の計画を立てました。

自分が決めた物語でポップに入れるとよいところを選ぼう

【見通し】

まずは前時の学習を振り返り、本時することを決めたり、単元の目標を確認したりすることで、課題解決への意欲を高めていきました。その際、前時に共通教材で学んだ、「変化前」と「変化のきっかけ」、「性格」「気持ち」をポップに入れるとよかったことを確認し、それを見付けるためには、学級で共有している課題解決の方法（読みの技）の中で、どの技が



【行動】

本時までに作成した、自分が選んだ物語で起こる出来事を短くまとめた短冊を使って、ポップに入れる内容を決めたり、そこから想像できる人物の気持ちや性格を想像したりしていました。その際、同じシリーズを選んだ友達で班に、その中の同じ物語を選んだ友達とは隣になるように机を配置したことで、必要に応じて隣の友達と相談しながら物語の初めと終わりを比べ、「変化前」や「変化のきっかけ」を探したり、班の友達と、物語を越えて人物の性格を相談し合ったりしながらポップに入れる内容を吟味していました。



【振り返り】

本時の課題解決ができたかどうかを振り返った後、教師の「次の学習に生かすためには何を振り返ればよかったかな」という問いかけによって、学び方について振り返ることの意義を想起していました。その後、読みの技やグループでの取り組み方などについてを項目にした「秘伝の書」を基に、自分やグループの取り組み方を振り返りました。その際、具体的にどんな場面でできたと感じたかを想起することで、協働のよさや他者への貢献を感じていました。



成果と課題

○同じシリーズやその中の同じ物語を選んだ友達とペアやグループになって活動することで、必要に応じて友達と関わりながら、自分のポップに入れる内容を相談して課題解決したり、自分の取り組み方を振り返ったりできた。
▲教師が個別に問い返していた言葉等を共有したり、悩んでいるグループの課題を全体で取り上げ、どのように解決すればよいか共有する時間を設けたりするなど、子供たち同士でより学びを深めていくことができる手立てが必要であった。

第5学年国語科「長年愛される物語の魅力について伝え合おう ～『大造じいさんとがん』～」

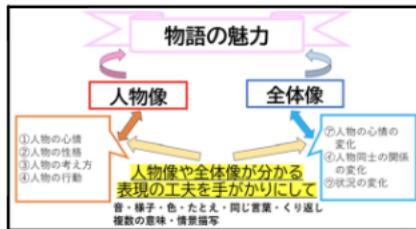
学習指導者 小出 早織

『大造じいさんとがん』が長年教科書で扱われていることを知り、その理由について疑問に思った子供たちは、「物語の魅力を見つけて、友達と伝え合おう」という単元の目標を設定しました。そして、前単元での学習から、人物像と物語の全体像を想像していくと魅力が見付かったことを想起し、必要な学習を考えながら、残り時間を見て、役割を分担をして進める学習計画を立てました。

四場面までの人物像や全体像を考えよう

【見通し】

前時の学習を振り返り、三場面までの人物像や全体像について確認し、本時の課題を決めました。その際に、単元の目標を確認することで、課題を解決する目的を再確認し、課題解決への意欲を高めました。課題を設定した後は、「これまでに獲得した国語の技から使えそうなものを選ぶ」という方法を用いて、これまでの学習経験を基に、使えそうな技を選択して解決の見通しをもちました。



【行動】

班で人物像と全体像の観点を分担した後、同じ観点の友達と小グループを作り、想像したことを付箋に書きながら考えを交流しました。班に戻った後は、班で1枚のワークシート上に観点ごとに色分けした付箋を貼りながら、「残雪に対して言った会話文から、大造じいさんは、正々堂々とした人だと思うな」「残雪だからこそ、そう考えたのかもしれないね。一場面から比べると二人の関係が変化してきていると思ったよ」などと、二つの観点を関連させながら想像したことを伝え合いました。全体交流でも、複数の叙述を関連させながら、人物像や全体像について話し合い、考えたことをワークシートにまとめました。



【振り返り】

学びチェックの欄に使った技の記号と、参考になった友達の名前を記すようにすることで、自分の取り組み方や友達と学ぶことのよさを捉えることができました。そして、友達から学んだと感じている姿の具体を全体の場で取り上げることで、自分が友達の学びに貢献していることを感じていました。その後は、次に取り組むべき課題について問いかけることで、次の活動の見通しをもつことができました。



成果と課題

○二つの観点を分担し、ジグソー型学習で人物像と物語の全体像について想像したことを話し合ったことで、想像する際の根拠となる叙述が焦点化され、物語の魅力につながる人物像や全体像について想像を広げることができた。
 ▲班での話し合う際に、より分かりやすい話し合う手順や具体例を示すなどの手立てがあれば、物語の魅力につながる人物像や全体像についてのさらに想像が深まった。

第3学年社会科「火事から命を守る人々の働き ～思いと行動が安全をつくる～」

学習指導者 網野 未来

昨年24件の火事があったにもかかわらず、死者が0人だったことに驚きを抱いた子供たちは、その理由について予想を整理し、「火事から命を守るための道具や設備、人の働きを調べよう」という単元の目標を設定しました。そして、学校や家庭にある消防設備の特徴や目的、消防署や消防団の人々の働きを調べ、火事から命を守るために自分たちにできることを考えていきました。

女性分団があることの良いところは？

【見通し】

前時を振り返り、消防署と消防団の違いについて分かったことを確認しました。そして、各々の地域に分団があるのに、それとは別にどの地域にも属さない女性分団があることについて疑問に思っていたことを想起しました。火事から命を守る人々の分布をまとめた地図を使いながら、女性分団のよさは何か知りたいということ共有し、本時の課題を設定しました。その後、消防署や他の分団の人、市民という立場に立って考えていけばよいことを共有しました。



【行動】

既習事項を基に根拠を明確にし、選んだ立場が同じ友達と関わるなどしながら、各々の立場にとってのよさを考えていきました。その後全体で、消防署や他の分団の人にとっては、市の安全のために活動する仲間が増えることを、市民にとっては、女性分団の活動が、市民の防火、防災意識を高めることを共有しました。話し合ったことは、女性分団の方の話の映像を使って検証し、消防団の強化や、女性分団の活動を市民に喜んでもらっていることに気付くことができました。



【振り返り】

各自で分かったことをまとめた後、女性分団があることで、火事から命を守ろうという市民の意識が高くなること、より強い消防団をつくることにつながることを確認しました。また、自分の学び方（資料を見ること、友達と話すことなど）の何がよかったから、課題についての答えが見付かったのか学習過程について振り返りました。



成果と課題

○三つの立場を示し、女性分団があることの良いを考えるようにしたことで、考えやすい立場を選択し、自分なりの考えを記述できていた。また既習事項をまとめた補助黒板や手持ちの資料があったので、考えの根拠がもちやすくなっていた。
▲見通し場面で女性分団が本当に必要なのか揺さぶったり、どうして女性だけで活動をするのか問いかけたりした上で女性分団があることの良いを考えていく方が、子供がより強い課題意識をもって、課題解決に取り組めたのではないかと。

第5学年社会科「買い負け！回転寿司から魚がいなくなる未来 ～これからの食料確保～」

学習指導者 半澤 友博

回転寿司の昔と今の値段を比較し、「なぜ回転寿司の値段が上がったのだろう」という単元の目標を設定しました。そして、輸送費や輸入先などについて調べ、遠い国からの輸入や買い負けなど値段高騰の原因を捉えていきました。その後、「輸入の問題は水産物だけか」という疑問から、食料品全体についても解決の取組を調べ、これからの食料確保について考えをまとめていきました。

なぜ近い国から水産物を輸入できなくなったのだろう

【見通し】

前時に発見した「昔は近い国から水産物を輸入できていてコストも低かったのに、今はなぜ近くの国から輸入できなくなっているのか」という問題を想起し、学習課題を設定しました。そして、外国の人の立場になって考えることなど社会科のこつの中のどれが使えそうか、解決の見通しを全体で共有しました。また、困ったときや、よりよい考えをつくりたい時には友達と関わるとよかったことを確認し、友達と共に課題解決していくという意識を高めました。



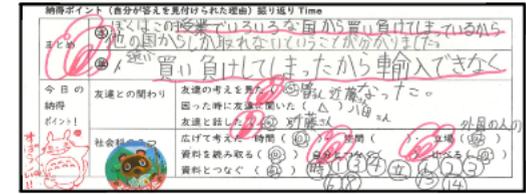
【行動】

社会科のこつや既習の資料などを基に個人で考えたり、友達と相談したりしながら考えをつかっていきました。そして、全体で交流し、近くの水産物の漁獲量が減少したことや、周りの国が水産物を輸入するようになり、日本が輸入できなくなっていることをまとめました。また、中国やタイの水産物輸入量のグラフを読み取り、外国の魚ブームと近隣国の経済力が上がったことで外国が水産物を輸入するようになり、日本が輸入できなくなっている（買い負け）ことを確かめました。



【振り返り】

社会科のこつと友達との関わり方を観点とした振り返りシートを使って、自分が答えを見付けられた理由（納得ポイント）について振り返りました。その後、納得ポイントについて友達とインタビューし合うことで、「〇〇さんが外国の立場から考えていたから、なぜ水産物が輸入できなくなっているか分かりました」など、今日の学習でなぜ答えを見付けられたのかという自己の学び方を明確にしました。



成果と課題

○社会科のこつや既習の資料を使いながら、主体的に問題解決する姿が見られた。また、振り返り場面では、友達と関わりながら、自分の納得ポイントについて振り返ることができ、次の学びにも生かそうとする様相が見られた。
 ▲消費者や外国の人の思いの資料を使えるようにしたり、「どこの資料から考えたの」などと根拠を示せるようにしたりすることで、水産物を輸入しづらい一因である買い負けについて、より深い理解につながられたのではないかと。

第5学年社会科「南海トラフ地震とどう向き合うか ～自然災害とともに生きる～」

学習指導者 半澤 友博

自然災害が多いことを捉えた子供たちに脆弱性指数を示すことで、「自然災害に対して、誰かが何か対策をしているはずだ」という関心を高め、「自然災害から命や暮らしを守るために誰がどのような取組を行っているのか明らかにしよう」という単元の目標を設定しました。そして、国や県、町などの行政やそれに応える住民の取組を調べたり、関係付けたりしながら、解決していきました。

2012年から2025年にかけてどのように防災意識が高くなったのだろう

【見通し】

資料から、防災に関する意識が低い2012年の住民が2025年には高くなっていることに気付いた子供たちは、この間にどのようなことがあったのか課題意識をもちました。そして、友達と交流しながら、社会科のこつ（時間・空間・立場を広げて考える）の中から使えそうなものを選び、「行政の国見さんがどのような取組をしてきたか年表を使って考えればよさそう」などと解決の見通しをもちました。



【行動】

社会科のこつや既習事項を基に個人で考えたり、友達と相談したりしながら考えをつかっていきました。その後全体で、年表や資料を基に「行政の人が津波避難タワーを作り、これなら逃げられそうと思ったんじゃないかな」などと行政や住民の取組により住民の防災意識がどのように高まったのかを捉えていきました。考えを整理する中で、行政が始めた取組がきっかけとなり、住民がそれに応える形で徐々に防災意識が高まるとともに防災に対する取組が広がっていったことをまとめました。



【振り返り】

本時の学習をまとめた後、これまでの学習経験から、社会科のこつと友達との関わり方を視点とした振り返りシートを用いて、学び方について振り返りました。「行政や住民の立場になって考えたから…」などと解決につながった見方・考え方を明確にしていきました。さらに、課題解決に役立った友達のよかったことを書いた付箋を友達と渡し合うことで、友達と関わるよさや自己の貢献を感じていきました。



成果と課題

○社会科のこつヒントカードを手元に準備したり社会科の見方・考え方の具体例を補助黒板に掲示したりすることで、見通しを明確にもつことができ、課題解決に生かそうとする様相が見られた。

▲全体交流の際に、住民の中でも誰の取組や思いなのか整理しながらまとめることで、行政から地区長や学生、そして高齢者というような流れで意識が高まっていったことを捉えられたのではないかと。

第2学年算数科「形Monster図鑑をつくろう！ ～三角形と四角形～」

学習指導者 井下 修一

形Monster（三角形や四角形などの図形）を分類し、図鑑に位置付けることができた子供たちに、他の形Monsterの存在を伝えることで、弁別して図鑑をつくる意欲を高め、「形Monster図鑑をつくろう」と単元の目標を設定しました。そして、弁別する視点を増やして図形の概念の理解を深め、様々な形Monsterを弁別して図鑑に増やしながらか学びを進めていきました。

合体進化した形Monsterも、仲間分けできるかな

【見通し】

本時の初めには、前時の学習を振り返り、弁別する際には辺や直角に着目することが大切だったことを確かめました。

そして、黒板マン（長方形）2体が合体した形Monsterの存在を知り、弁別の意欲を高め、



課題を設定しました。その後、補助黒板



本時も同じように辺や直角などに着目して弁別していけばよいと解決の見通しをもちました。

【行動】

長方形二つで構成された図形について、図形の定義を根拠にして、形センサーで辺や直角に着目しながら、弁別した理由を演繹的に説明していきました。

そして、合体進化した形Monsterも辺や直角に着目すると、正確に弁別できることを確かめました。その後、



形Monsterや構成の仕方を変えて合体進化しても弁別できるか考えていく活動を通して、条件が変わっても辺や直角に着目すると弁別できることに気がきました。



【振り返り】

「もし別の形Monsterだったらと考えたら、辺や直角を見て仲間分けすることがいつでも使えると分かった」や「〇〇さんと形センサーで角が直角か調べると、正確に仲間分けできた」などと分かった・できたことや友達と関わってよかったことを記述し、発表していきました。そして、本時の授業写真を見返しながら、友達と関わり合いながら学べたことを確認しました。

その後、「もっとたくさん形Monsterが合体すると、どんな仲間になるのかな」と次時の問題を発見しました。



成果と課題

○単元の目標に向けて、子供たちで学習課題を設定し、形センサーを使いながら意欲的に弁別する姿が見られた。「今まで勉強したことだから、同じように使えそうなことを考える」という自己調整する方法を想起し、使うことができていた。

▲長方形が合体してできた辺が直線かどうか判断することに時間をかけ過ぎた。本時、大切にしかかった図形の定義を根拠にして、弁別した理由を演繹的に説明することに多くの時間をかけられる方が深い学びへつながっていくのではないかな。

第4学年算数科「どんな数でも同じように筆算できるかな ～1けたでわるわり算の筆算～」

学習指導者 好井 佑馬

割る数が一桁の除法の暗算や筆算の仕方について、図と関連付けながら理解した後で、「どんな数でも同じように計算できるのか」という問題を見だし、単元を通して、様々な数や桁での計算に取り組むことで、除法の暗算や筆算はどんな数でも被除数の大きい位から位ごとに計算し、「たてる」、「かける」、「ひく」、「おろす」の繰り返しであることを理解していきました。

2桁÷1桁の筆算を速く正確に計算しよう

3桁÷1桁の筆算は同じように計算できるのか考えよう

ひいた数や商に0がある場合の筆算は同じように計算できるのか考えよう

4桁以上の数÷1桁の筆算は同じように計算できるのだろうか

【見通し】

「3桁÷1桁、4桁以上÷1桁の筆算は同じように計算できるのか考えたい」などの前々時までに見いだした問題を確認し、前時にまだチャレンジしていないことから、本時の課題を一人一人が設定しました。また、活動の時間配分や活動形態を計画し、解決方法の見通しをもちました。



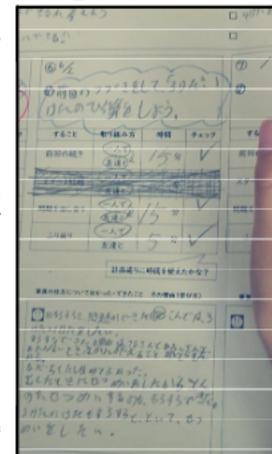
【行動】

それぞれの課題ごとに集まり、筆算手順カードや前時までのノートを参考にしながら、筆算の仕方を考えたり、分からない部分を必要に応じて友達と教え合ったりするなどして、学習を進めていきました。筆算を行った後には、「自分の考えが正しいか確かめる」という解決する方法を想起して、検算を行ったり、筆算の仕方を見直したりしました。その際、友達とも確かめ合いながら自分の考えを見つめていきました。その後、課題に準じて自分で数値を設定し、その問題の解答を作成した後、友達と交換して問題を解き合っていました。



【振り返り】

計画した時間配分や学び方などについて振り返り、筆算の仕方について考えたことを確かめました。また、協働の仕方を振り返る際には、「ありがとうを伝えたい友達」に思いを記した付箋紙を渡すことで、協働のよさや他者への貢献を感じていました。



成果と課題

○見いだした問題から自分で課題を設定できる単元構成によって、必要感をもって、筆算の仕方を考えられていた。また、友達と自由に関われる環境によって、必要に応じて友達と関わり合いながら、学びを進めることができていた。
 ▲友達との関わりが増えたために、自分の学習に取り組む時間を確保できない子供の姿が見られた。単元を通した子供一人一人の学びを想定し、自分の学習を進めることと友達と学ぶことのバランスをとれるようにしたい。

第2学年生活科「オモローを生かしたおもちゃを作って遊ぼう ～せかいでひとつわたしのおもちゃ～」

学習指導者 河口 美穂

素材遊びをした子供たちは、素材の特徴から生まれる動きの面白さ（オモロー）に気付き、「オモローを生かしたおもちゃを作って、クラスのみなどと遊びたい」といった思いを高め、「2年東組のみなどでおもちゃで遊ぼう」という単元の目標を設定しました。また、「1年生にも楽しんでもらいたい」という思いから、「1年生を招待して2年東組おもちゃ祭りをしよう」と目標を再設定しました。

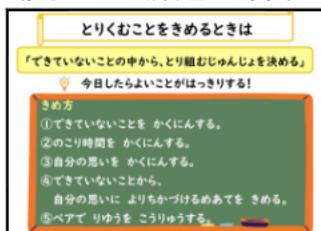
1年生が楽しめるようにおもちゃや遊び方をもっとパワーアップしよう

たくさん1年生が来るかもしれないからの数の増やそう

壊れやすいと遊べないから、おもちゃを丈夫にしよう

【見通し】

前時の学習を振り返った後、何のためにおもちゃや遊び方をパワーアップしてきたのか振り返り、「1年生を招待して2年東組おもちゃ祭りをしよう」という単元の目標を確認しました。その後、全体の学習課題を確認し、本時まででできていないことの中から、自分の思いに近づく優先順位の高い課題は何か考え、取り組む順序をワークシートに書き込んでいきました。また、設定した課題の順序が妥当なものか友達と確認した後、全体で時間配分を決め、本時の学習の見通しをもちました。



【行動】

設定した課題を解決するために、おもちゃや遊び方の工夫をしました。おもちゃの種類別におもちゃの修理、改良ゾーンとお試しゾーンに分かれて必要な時に友達と関わりながら自由に活動し、パワーアップの仕方で困っている時は、教師が周りの子供とつなぐことで、どうしたら解決できそうかアドバイスをもらえるようにしました。



【振り返り】

「できたこと」「おもちゃや遊び方に付け足したいことや変えたいこと」という二つの視点を基に振り返りを行いました。「できたこと」は、見通し場面で設定した課題の番号にチェックを入れ、「おもちゃや遊び方に付け足したいことや変えたいこと」は、おもちゃの写真やワークシートに書き込みました。全体での振り返りでは、「1年生が遊びやすくなった」などと自分の成長を感じることができました。



成果と課題

○自分の思いや願いを基に、おもちゃや遊び方について工夫しようとする姿が見られた。友達にアドバイスする姿も見られ、そうした関わりが次への意欲にもつながっていた。

▲素材の特徴から見られる面白さ（オモロー）の意識が薄かった。単元の始めは意識していたことを単元を通して、意識できるように、全体で再確認をしたり、オモローを生かしているおもちゃを作っている子供を価値付ける必要があった。

第2学年生活科「支えてくれた人に成長と感謝を伝えよう ～これまでのわたし これからのわたし～」

学習指導者 河口 美穂

これまでの思い出を振り返り、自分の成長を感じた子供たちは、もっと成長を見付けたいと思いを高め、「これまでの思い出を集めて成長を見付けよう」と目標を設定しました。また、成長の理由を考えたことで、周りの人の支えがあったことに気付き、支えてくれた人に成長と感謝を伝えたいと思いを高め、「支えてくれた人に自分の成長と感謝を伝えよう」と目標を再設定しました。

支えてくれた人に伝えたい成長を選ぼう

【見通し】

初めに、単元計画を基に単元のゴールや既習事項を確認し、学習課題を設定しました。次に、解決の方法として「自分の考えをパワーアップさせるにはどうすればよかったかな」と問いかけ、「今することに合っているか考えを見直す」という解決の方法を想起しました。そして、教師のモデルを基に、①思いが強いもの②支えてくれた人のおかげが伝わるものの二つの視点で考えるとよいことを捉えました。その後、たくさんの成長カードから、「支えてくれた人に伝えたい成長をカードを動かしながら選ぶ」という見通しをもちました。



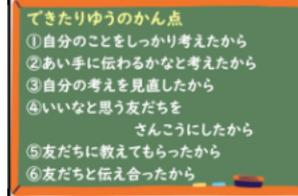
【行動】

前時に作成した成長カードを、たしかめく（自分の考えを整理する際に使う教具）に話し掛けながら発表に使うかどうか吟味していきました。成長カードを全て動かし終わると、見通し場面で確認した二つの基準を手掛かりに再度発表したいものかどうか見直しました。その後、ペアになり、発表するかどうか迷っている成長カードについて相談し合うことで、自分が伝えたいカードを再考しました。



【振り返り】

振り返りの視点「①本時でできたこと②その理由」を確認しながら振り返りました。その中で、「支えてくれた人に伝えたい成長を選ぶことができた」や「発表で『使う』か悩んでいたけど、相談したおかげで選ぶことができた」など、見直す基準を使って考えることのよさや友達と伝え合うことのよさを捉えていました。



成果と課題

○前時に思い出年表を振り返りながら、昔と今の自分を比べて成長をカードにまとめていたため、「思いが強いもの」として、自分の思い出を想起しながら発表として「使う」かどうか選びやすくなっていた。

▲誰に伝えたいのか伝える相手が決まっていなかったため、見直す基準②を使ってカードを選びにくい様相があった。相手意識を明確にしておくことで、よりその人に伝えるべき成長かどうか吟味しやすくなっていたと考えられる。

第3学年理科「目指せ！ベストスコア！風ゴムゴルフ大会 ～風とゴムの働き～」

学習指導者 藤川 裕人

風やゴムの力でなるべく少ない回数でゴールを目指す「風ゴムゴルフゲーム」をした子供たちは、体育で経験したスローイングゴルフの時のようにスコアをよくしたいという思いを高め、「風やゴムを上手にを使ってスコアをよくしよう」という単元の目標を設定しました。そこで、風の力やゴムの力（伸ばす長さ、太さ、本数）と車の進む距離の関係を調べ、目標の達成に向かいました。

車の進む距離は、ゴムの〇〇によってどのように変わるのだろう

【見通し】

単元計画を見ながら前時の学習や単元の目標を想起した後、目当ての確認をしました。その後、風の条件を調べた際の共有ボードや方法の掲示物を基に、「複数の結果を比べ共通点を見つける」という方法の見通しやよさを確認しました。そして、クラスの友達と前時に作成した計画シートを基に、実験内容、順番、時間配分、役割分担の再確認を行いました。



【行動】

計画シートに基づいてそれぞれの班で計画した変える条件（最低2種類）を確認後、実験に取り組み、結果をデジタルシートに入力して平均値を算出しました。その後、シートを用いて条件ごとに分かれていく共有ボードに結果を貼りに行き、複数の班と比べました。共有ボードを見た子供たちは「ゴムの伸ばす長さを変えると車の進む距離も変わる」などの共通点を見つけ、考察していきました。全体で考察を共有する際には、ゴムの力の大きさと車の進む距離の関係や、前回学んだ風と同じで力を大きくすると車の進む距離も長くなるという共通点を捉えていきました。



【振り返り】

理科の問題解決の過程において大切な学び方を示したチェックリストを基に自己評価した後、風ゴムゴルフ大会で生かせそうなことを記述し、本時の学びを振り返りました。他の班の実験とアドバイスから協働のよさを感じたり、「風ゴムゴルフ大会では、ゴムの伸ばす長さを15cmにして車を10mくらい動かしたい」などと風ゴムゴルフ大会で生かせそうなことを明確にしたりしていました。



成果と課題

○班の中で役割分担をしたことにより、協力しながら課題解決に取り組み、協働のよさや自己の貢献を感じる子供の姿が見られた。また、他の班との交流を積極的に行い、正しい結果が得られているか検討する姿も見られた。

▲実験前に「複数の結果を比べ共通点を見つける」という方法の確認を行ったが、方法を使えていない子供がいた。方法のよさの実感が不十分であったと考えられるので、今後の考察でよさを実感できるようにしていきたい。

第6学年理科「植物はどう生きている！？ ～植物のからだのはたらき～」

学習指導者 増田 洗一

前単元「動物のからだのはたらき」の学習において、動物の体の巧みさに感動した子供たちは、植物の体のつくりはどうかと考えを広げ、「植物が生きていくための体のつくりと働きを調べよう」と単元の目標を設定しました。そして、動物と比較しながら、生きていくために必要な空気、養分、水についての問題を見だし、予想を基に実験方法を発想しながら、課題解決していきました。

根から吸い上げた水は、体のどこを通っているのだろう

【見通し】

補助黒板を基に、前時学習したことを振り返り、本時の学習課題や実験方法などを確認し



ました。「客観性のある考察をするにはどうしたらよかったかな」という教師の問いかけにより、「複数の結果から考察する」という解決する方法を想起しました。その後、計画シートをペアで見返し、「複数回実験を取り組むように計画できているか」「複数種類の結果を確かめられる時間配分になっているか」などを確認しました。



【行動】

三種類の植物の中から、二種類まで選び、水の通り道をペアで観察しました。結果は、根・茎・葉ごとに分類



して結果デスクで共有し、複数の結果を基に、共通点や差異点を見付けていきました。染まった部分は、学習支援アプリ上で、根・茎・葉のイラストに赤で色を付け、その結果を基に、考察を記述しました。全体で考察を確認する際には、どの植物も根・茎・葉に水の通り道があるという共通点や植物の種類によって通り道が違うという差異点を見付けました。



【振り返り】

実証性・再現性・協働性の三つの観点でまとめたチェックリストを基に、よりよい学び方ができたかどうかをペア



で振り返りました。その中で、「友達と結果を見せ合うことで、より確かな考察ができた」「自分の結果がみんなの役に立った」など、協働のよさや自己の貢献を感じていました。また、本時の学びから、「植物は下から上まで水を届けられるのってすごいな」など、植物の体の働きに驚きを感じている姿も見られました。

成果と課題

○結果デスクがあったことで、複数の結果を基に考察しやすい場となっており、どの植物にも、水の通り道があるという共通点を見付けられた。また、活動によって場を分けておくことで、自分の進度に合わせて学びを進めやすかった。

▲観察した植物自体を結果デスクに置くだけに留まらず、結果をスケッチしたものなど、見やすくしたものを共有した方がよりよかった。自分の進度に合わせて考察する流れだったため、一部の結果だけで考察する子供がいた。

第4学年音楽科「情景を思い浮かべて工夫して歌おう ～『まきばの朝』～」

学習指導者 高口 佳子

曲を聴き、曲想について捉えた後「まきばの朝」という題名を知りました。そこでどうして「まきばの朝」という題名なのかと疑問に思った子供たちは、既習の歌唱の学習を手掛かりに、歌詞と楽譜に分けて音楽の構造に着目すれば曲について理解したり工夫して歌えたりできるのではないかと考え、題材の目標を設定し、工夫して歌うために曲を詳しく見ていこうと目標達成に向かいました。

「まきばの朝」の歌詞や音符からひみつを見付けよう

【見通し】

初めに聴いて捉えた「まきばの朝」の曲想から疑問に思ったことを基に、『まきばの朝』のひみつを見付けて工夫して歌おうという題材の目標を立て、本時の課題を設定しました。そして、ひみつを見付けるために、解決の手掛かりとしてきたものを書き溜めた「音楽の技リスト」や音楽を形づくっている要素を一覧にした「音楽の宝箱リスト」、既習のワークシートを振り返り、その中から使えそうなものはないかなと考えました。歌詞や楽譜から音楽の構造を理解するためどのようなところに着目してひみつを見付けるか、解決の見通しをもちました。



【行動】

歌詞と楽譜の考えやすい方を選択し、歌詞では、言葉の繰り返しや時間、自然を表す言葉に着目し、楽譜では、音の高低や、音符の長短といった特徴を見付けました。「これまでの曲は題名の言葉を一番伝えたかったけど、この曲ではどうして朝のまきばに聴こえる音を伝えたかったのだろう」とこれまでの歌唱の学習と比較し、「まきばの朝」のひみつを見付けました。そして、同じ立場、違う立場の友達と見付けた意見を交流し合うことで新たな発見をし、音楽の構造をより深く理解しました。



【振り返り】

歌詞や楽譜を手掛かりに、新しく発見したことや友達の意見で参考になったこと、手掛かりをどのように使ったかについて振り返りました。また、これまでの学習とつながっていることを実感するために「音楽の技リスト」と「音楽の宝箱リスト」の中から使ったものに日付を書き加え、蓄積していき、学習のつながりを実感していました。そして、次はひみつを基に思いや意図をもって工夫して歌唱をしたり、歌唱を録音して聴いてみたりするという次時の見通しを立て、意欲を高めました。



成果と課題

○これまでに学習した「さくらさくら」や「エーデルワイス」などの学習を生かしながら学習に向かう姿が見られた。また、同じ立場や違う立場の友達と意見を交流することで、楽曲の新たな構造に気付くことができた。
▲「工夫して歌いたい」という意識を高められていなかったため、「音の高低があるから強弱を工夫して歌えそうだ」などと考える姿が見られなかった。「歌い方の工夫につながるひみつを見付ける」という意識を強くもたせる必要があった。

第3学年音楽科「目指せ！日本一の歌い方 ～『ふじ山』～」

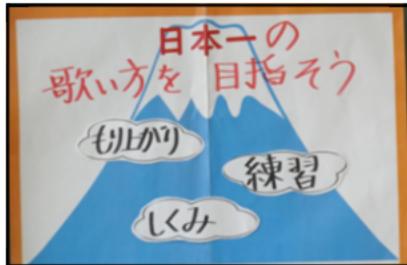
学習指導者 高口 佳子

坂出市音楽会出演の経験を想起したり、合唱日本一の動画を見たりした子供たちは、「自分たちの歌も曲想に合っていたけど、他の曲でも曲想に合った歌い方を考えて日本一の歌い方をしたい」と意欲を高め、「曲の特徴を捉えて、曲想にぴったり合った日本一の歌い方を目指そう」という題材の目標を設定しました。そのためには、強弱を工夫するとよさそうだと気づき曲想を捉えていきました。

『ふじ山』の山を見付けよう

【見通し】

前時に音楽会での演奏や、小学生日本一の合唱を聴き、どちらも曲想に合った歌い方だったことを振り返りました。そして、本時の教材である『ふじ山』を聴き、どのような曲想だったかを思い出し、『ふじ山』の曲想に合った歌い方をするためには曲の山を見付けて、強弱を工夫して歌うとよさそうだと「富士山ボード」（発見した問題を位置付けたもの）に示し、本時の課題を設定した後、解決の見通しをもちました。



【行動】



「歌詞」と「旋律」を視点にグループで一枚のワークシートに工夫点を書き込みながら意見を出し合ったり、絞ったりしていきました。「考える、歌う、聴く」を繰り返しながら強弱の工夫について考えを深めていったことで、一番の曲の山を見付けることができました。



【振り返り】

分かったことやできたこととその理由について個人の振り返りカードに記入しました。また、自分では気付いていなかったことに気付けるようにグループで学習を振り返る時間を設定し、協働のよさや他者への貢献を実感していきました。その後「富士山ボード」を使って、解決できた問題を整理したり、目標とを比べたりして「次は曲の山以外の歌い方を工夫しよう」という次の目標を見いだしたりしていきました。



成果と課題

○音楽会の歌や日本一の歌を聴いたことで曲想に合った歌い方が大切だという意識をもつことができた。録音機能を活用し、「考える、歌う、聴く」という循環が生まれ、曲想に合った歌い方を目指そうと試行錯誤する姿が見られた。

▲試行錯誤の時間が十分確保されていなかった。また、「曲の山」という言葉の理解が不十分だったため、見付ける際に迷う姿が見られた。子供たちの実態に合わせて、見付け方を全体で周知する時間を設ける必要があった。

第1学年図画工作科「世界に一つ 自分だけの箱 ～たいせつボックス～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 内田 珠世

自分が大切にしている物について紹介し合った後、美しく飾られた箱と無装飾の箱を見比べて、どちらの箱に入りたいか考え、「大切な物を入れる箱を、特別に飾りたい」という思いを高めて、「大切な物を入れる世界に一つの自分だけの箱をつくろう」と題材の目標を設定しました。そして、つくりたい箱のイメージに合うように形や色を工夫して思い思いに箱を飾りました。

もっと「世界に一つの自分だけの箱」にしよう

【見通し】

まず、題材の目標を再確認して箱づくりへの思いを高めました。また、前時の学習を振り返り、イメージが似ている友達とは似たような形や色になっていたことや、まだ試していない形や色がたくさんあったことを想起して、「もっと世界に一つの自分だけの箱にしたい」という思いを高め、本時の学習課題を設定しました。その後、ペアで話したり、全体で交流したりしながら、今日試してみたい形や色などについて具体的に考えて、本時の製作活動に見通しをもちました。



【行動】

工夫してつくるための手掛かりをまとめた「くふうめがね」や、材料ごとの技の掲示を参考にしながらつくりました。また、材料を取りに行く際に友達の活動を見て、いいところを見付けて尋ねたり、技の掲示に貼った名前シールを見てその技を試している友達に相談したりと、自由に友達と交流しながら、自分のイメージに合うように、様々な形や色を試しながら、工夫してつくりかえたりしました。



【振り返り】

作品の写真を撮り、前時までの作品の写真と比べて、イメージに合うように変えたところである「変身ポイント」を見付けることで、自分の学びを捉えました。その際、ペアの友達と話しながら、形や色を視点に工夫したところを考えました。最後に、「変身ポイント」について全体で紹介し、前時と比べて振り返ることのよさを共有しました。また、次にしたいことを考え、次時への見通しをもちました。



成果と課題

○自由に交流しながらつくれる教室環境の工夫や、教師が子供の工夫を価値付けたり、「なぜ赤色にしたの」などと問うたりすることで、イメージに合わせて形や色を選びながら、工夫してつくりかえたりすることができた。
▲「変身ポイント」の理解が不十分で、自分の作品のよさを形や色という視点で捉え切れていない子供がいた。形や色を意識している姿の価値付けや友達との交流によって形や色を工夫したことへの自覚を促す必要があったのではないか。

第1学年図画工作科「スタンプで私もアーティスト！自分だけの特別アート！ ～うつした かたちから～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 内田 珠世

自由にスタンプ遊びをする中でできた形や色について、何に見えるか想像を広げたり、何（材料・色）をどうやって写したか（技）をクイズで共有したりし、さらに多様な材料・色や技を試しました。その後、教師の作品の例を見て、見付けた材料・色や技を使って「自分だけのスタンプアートをつくろう」と、題材の目標を設定し、作品づくりをしました。

〇〇のスタンプアートをつくろう

【見通し】

題材の目標を確認した後で、目標に向かって前時の終わりに考えた、「自然がいっぱいのスタンプアート」などと自分がつくりたいイメージを再確認し、本時の課題解決への意欲を高めました。その後、イメージに合う作品にするためには材料・色や技をたくさん試すとよかったことを想起しました。また、試したい材料・色や技について、友達とインタビューし合うことで表出し具体的制作の見通しをもちました。



【行動】

画用紙やお試しコーナーのロール紙に、イメージに合いそうな材料・色や技をたくさん試しながら、スタンプアートをつくりました。活動中は、スタンプ遊びで見付けた「並べる」「重ねる」などの技の掲示を見たり、アイデアをもらう、一緒に試すなど、友達と交流したりしながら試したいことを考えました。そうすることで、イメージに合う材料・色や技を見付けたり、イメージをどんどん更新したりし、つくり、つくりかえながら作品づくりをしました。



【振り返り】

まず、全体で、教師からのインタビューに答える形で本時の学びを捉えました。次に友達同士でも尋ね合い、表出することで、今日自分が試した材料・色や技、それによってどんなスタンプアートになったかを捉え、自分の作品に対して意味や価値を感じていました。最後に、振り返りカードに「イメージに合う作品になった」「イメージが広がった」などの項目を三段階で自己評価し、「友達に相談した」などの項目に丸を付けてできた理由を振り返ることで、今日頑張ったことや協働のよさを実感していきました。



成果と課題

〇たくさん試したいと思える十分な材料の用意や、すぐに試せる班ごとの場の設定により、イメージに合う表し方を考えたり、豊かにイメージを広げたりすることができた。動線上に技を掲示したことで自然な対話が生まれた班も見られた。
▲豊かに共調整しながら活動できた班と自分の制作に没頭して対話がなかった班で二極化していた。子供たちが友達と交流したいと思える場の設定や、共調整を価値付ける声掛けをして、より協働のよさを実感できるようにする必要がある。

第5学年家庭科「一枚の布から思いを紡ごう ～ミシンで楽しくソーイング～」

学習指導者 阿部 聡子

手縫いやミシン縫いした身の回りの物を観察したり、教師がミシン縫いを示範したりすることで、それぞれの縫い方のよさに気付き、ミシンを使って製作したいという思いを高め、「ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう」と題材の目標を設定しました。生活に役立つ物(ランチョンマット・箸袋)の製作に必要な縫い方を選択し、ペアと縫い方のポイントを考えたり、確認し合ったりしました。

いろいろな縫い方を練習して、ミシンマスターになろう

【見通し】

題材計画を基に、生活に役立つ物を製作するためにこれまでミシン縫いを練習してきたことを確認しました。そして、前時の学習から「よりよい製作物を作るために、もっと直線縫いや角縫いがきれいに縫えるミシンマスターになりたい」という思いをもっていただくことを想起し、本時の学習課題を設定しました。その後、直線縫いや角縫いをする時には、前時までの縫い方のポイントを使ったり、ペアで縫い目を確認したりし、縫えていない時は縫い方手本などを手掛かりにするとよいなどの解決の見通しをもちました。



【行動】

レベルアップしたい縫い方(直線縫い・角縫い)とその理由を伝え、交代でミシン縫いを行い、縫っていない時はチェックリストを用いながら、ミシンマスターになれるようにペアの縫い方とその順番を確認しました。縫い目を見て、角が上手く曲がれなかった時には、「角の手前で止まると角に針が刺せるからピッタリ止まれるよ」などアドバイスをしながら、自分の課題解決を行い、難易度の高い練習コースを時間いっぱい繰り返し練習したりしました。



【振り返り】

チェックリストを用いて、「できたこと・気付いたこと」「友達から学んだこと」について振り返りました。一緒に活動したペアに今日の活動を通しての自分の成長やペアのよかった点を伝え合うことで、「直線縫いがずれていたけれど〇〇さんに手の置く位置を教えてもらってやってみると上手に縫えるようになったよ」など友達と協働することでミシン縫いが上達できたことを実感しました。また、友達の課題解決に自分のアドバイスが役立っていることも実感しました。



成果と課題

○練習したい縫い方を選択し、ペアの友達とミシン縫いをしながら、繰り返し練習できる場を設定したことで、初めはミシン操作に不安を感じていた子供も安心して活動する姿が見られた。

▲振り返りの際、自分の縫い方の課題が解決できたかを表出させる必要があった。チェックリストの項目を精選したり、視覚的に分かりやすいものに工夫したりすることで、さらに縫い方のポイントを押さえることができたのではないかと。

第4学年体育科「スペースを見つけてつなぐ勝利への道筋 ～ゴール型ゲーム（2ゴールスライドサッカー）～」

学習指導者 安岐 美佐子

守備が1人の易しいゲームを体験した子供たちは、「チームの得点を増やそう」と目標を設定し、練習の中で、ボールを蹴る、止めるなどの基本的なボール操作を身に付けていきました。得点が増え、自信がついた子供たちは、「守備が2人の難しいゲーム」で隣の学級と「クラスマッチをして勝とう」と新たな目標を共有し、練習やゲームの中でボールを持たない人の動きを考えていきました。

さらに得点を増やすために守りがいない空いている場所に行く動きを試そう

4点とるために、両サイド作戦を使って走る場所を確かめよう

3点とるために、ちょこちょこ作戦でボールをつなごう

【見通し】

前時に設定した全体の課題を確認した後、チームごとに、「課題解決ボード」に書いている課題を確認しました。その後、補助黒板を手掛かりに、チームごとにどのような練習に取り組むか、課題解決の見通しをもちました。そして、解決後には、その成果をゲームの中で試すということを確認しました。



【行動】

チームの課題解決に向けた練習では、ゆっくり確かめながら動いたり、やり直したりする中で、友達と動く場所を伝え合い、何度も試していきました。練習の途中、ボールを持たない人が守りから遠く、重ならない場所に行けばよいことを実演しながら全体で共有しました。常に課題解決できたかをチームで確認しながら取り組み、練習後にゲームをしました。その中で、時間内に得点をさらに増やすためには、素早いパスも必要だということに気付いていきました。



【振り返り】

チームで、互いの「できたこと、分かったこと」と「その理由」を振り返り、課題が解決したかどうかを確認しました。そして、「課題解決ボード」に書かれた得点するために必要なものの中から、「より得点に繋がりそうなものを選ぶ」という方法を使い、チームで相談しながら次時の課題を新しく選んだり、同じ課題を再設定したりしました。できたことや分かったことの理由を全体で共有し、方法を使うことや友達と学ぶよさを感じていました。



成果と課題

○チームでボードを使って動き方を確認したり、「課題解決ボード」で課題設定や学習状況の確認をしたりする中で、守りがいない場所へ動く必要性に気付いたり、チームで得点を増やすための課題や作戦を選んだりすることができていた。
▲試した動きについて、うまくいった理由やうまくいかなかった理由を練習やゲームをしながら声を掛け合える子もいたが、チームの中で共有する時間をしっかり設けられるとよかった。

第6学年体育科「みんなで跳び越えろ、過去の自分 ～走り高跳び～」

学習指導者 山口 誉之

単元の最初に走り高跳びの記録を測定した子供たちは、昨年度全員の記録の合計が隣のクラスに負けてしまったことを思い出し、「今年こそは全員の記録の合計で隣のクラスに勝とう」という目標を設定しました。目標達成のためには、一人一人が1cmでも記録を伸ばしていくことが大切であることを共通理解し、個人の目標も設定しました。

記録を伸ばすために、ポイントを意識して練習しよう

空中で足と腕をしっかり上げられるようになろう

リズムよく助走できるようになろう

【見通し】

「隣のクラスに勝つ」という単元の目標を確認した後、本時の課題を設定しました。その後、前時の振り返りで見つけた自分の動きの問題点から個人課題を見いだしました。課題解決中に困ったら、補助黒板にあるみんなで蓄積した動きのこつを見たり、友達と動きの確認をしたりしながら、理想の動きと比べるとよいことと、自信をもてたタイミングで試しのジャンプに挑戦するとよいことを確認し、解決の見通しをもちました。



【行動】

課題に合った場を選びながら練習したり、友達に動きを撮影してもらい、理想の動きに近づくためにすべきことを助言してもらったりしながら取り組んでいきました。練習中、課題解決につながった子供の取り組み方を知ったことで、今自分が選んでいる場や練習が正しいのかを確認することができていました。行動場面の最後には、「まとめジャンプ」を行い、記録の伸びや動きの上達を捉えていきました。



【振り返り・見通し】

「まとめジャンプ」で撮影した動画を見ながら、友達と振り返りを行いました。自分の動きを手本の動画や理想のイメージと比べながら、「自分の成長」と「新たな問題点」を発見していきました。その後、一人一人の伸びで目標の達成に近づいていることを喜ぶとともに、友達からの助言のおかげで伸びたという発言を聞いて、他者と関わることのよさを感じていました。



成果と課題

○課題ごとに場を分けたり、順番の待ち時間の使い方を共通理解したりしたことで、友達と関わりながら学びを進める姿が多く見られた。そのおかげで、教師が、困っている子供に関わる時間を多く確保することができた。

▲解決場面で選んだ練習の場が妥当かどうかを判断できるように、助言が上手な子供である「アドバイザー」を活用したり、できた規準を明確にしたりすることで、課題に対する「分かった」「できた」がさらに増えたのではないかと。

第6学年体育科「つなげ勝利へのパス！ ～ボール運動ゴール型『ハンドボール』～」

学習指導者 山口 誉之

ハンドボールを簡易化したゲームを経験した子供たちは、ボールが柔らかいことへの安心感や得点する成功体験を味わう一方で、パスが繋がらないなどのつまずきも実感しました。しかし、チームで練習を工夫することで上達し、楽しくクラスマッチに取り組めたこれまでの経験を映像や写真から想起し、「クラスマッチで勝つために得点を増やそう」という目標を設定しました。

チームで〇〇作戦がうまくいく動き方を確かめよう

【見通し】

まず、クラスマッチで勝つ、という目標の達成に向けた、前時設定した全体課題を確認しました。次に、チームごとに課題を確認し、なぜその課題になったのか、一人一人がどのような動きをすれば課題解決につながるのかについて話し合い、解決の見通しをもちました。



【行動】

タスクゲーム（戦術を試す）、ドリルゲーム（基礎的な動き）、作戦会議を1セットとし、チーム内で目指している動きに近付いているかを仲間と確認し合いながら、2セット取り組みました。黒板に掲示している各チームが試している作戦を手掛かりに、同じ作戦を選んだチームの練習を見学し、よい動きを取り入れるチームもありました。メインゲームでは、攻撃・守備・作戦会議を1セットとし、攻撃回数・シュート回数・得点のデータを取りながら2セット取り組みました。タスクゲームで試した動きが得点につながったか確かめる際には、パスや動き出す「タイミング」、パスをもらう人の「位置」等の「得点につながるポイント」を意識し、必要に応じて動きを修正しながら繰り返しゲームに挑戦しました。



【振り返り・見通し】

チームごとに①課題解決につながった動きや新たな問題点②チーム内MVP③次のチームの課題についてリーダーを中心に話し合いました。チーム内MVPを決定した後、それらの課題解決に向けて取り組んでいた友達の名前磁石を補助黒板に貼って一覧することで、自他の貢献を感じていました。チームで次時に取り組む課題を設定する際には、「チームの特徴に合わせて、取り組むべきことを決める」という課題設定の方法を使い、ゲームのデータや様子を基に、全員で考えを出し合い、チームで話し合うことでより解決すべき課題を設定していました。



成果と課題

○作戦会議の時間を設けたことで、ゲームのデータや様子から気付いたことを伝え合い、活動中に動きを修正し、得点を増やす姿が見られた。また、動きの見通しをもてたことで、運動が苦手な子供も自信をもってプレーに参加できた。

▲データを正確に取れず、話し合いの根拠が曖昧になってしまったり、動きが改善されたかをデータから判断することができなかつたりした。動いた場所などのチームごとに必要だと感じるデータが取れるとよかった。

第2学年道徳科「すてきポイントを見付けて、なりたい3年生の姿を考えよう! ~『公園のおにごっこ』~」

学習指導者 井下 修一

自分が思うすてきな人と、その理由を交流することで、すてきポイント(すてきな人のよさ)が多様にあることに気付いた子供たちは、「すてきな人のよさを取り入れれば、なりたい自分になれる」と感じ、登場人物の言動から親切にするとはどういうことなのかなどを考え、「いろいろなすてきポイントを見付けて、なりたい3年生の姿を考えよう」と単元の目標を設定しました。

「公園のおにごっこ」には、どんなすてきポイントがあるのかな

【見通し】

前時見付けたすてきポイントと大切にしたいと思ったことを振り返りました。次に、年下で足の不自由な人に鬼ごっこに入れてと言われたらどうするか考えることで、教材への興味を高め、本時の目当てを設定しました。そして、「今日もすてきポイントが見付かると、なりたい3年生の姿が考えられそうだ」と意欲を高めました。その後、前時までと同じように、「すてきだと思った理由を考える」「自分にも似た経験があるか考える」「友達の考えと比べて考える」の学び方を使って解決していこうと見通しをもちました。



【行動】

教師の範読を聞いた後、ワークシートにすてきポイントを記述しました。自由交流では、「どうして〇〇がすてきだと思ったの」と尋ね合うことで、自分の経験とつないで、理由を考えました。全体交流では、年下で足の不自由なゆうたのことを考えた行為でも、ゆうたの笑顔につながらない行為があることに気付きました。そして、鬼ごっこを辞めたゆうたを見てどんな話合いをしたかのロールプレイをすることで、相手が本当に喜ぶ行為は何かを考え、親切にする事の大切さに気付きました。



【振り返り】

「よしえの、年下で足が不自由な人にも、『一緒にしよう』と声を掛けた優しいところ」や「しんじが、なぜゆうたが辞めてしまったのかと相手の気持ちを考えているところ」などと、親切に対する思いを振り返り、いいと思ったすてきポイントについて友達と交流しました。その後、自分が選んだすてきポイントを手掛かりに、これから大切にしたいことを考え、シートに記述し、蓄積してきました。



成果と課題

○すてきポイントを見付けるよさが実感できており、目的意識をもって本時の学習に臨むことができていた。教材の登場人物のすてきポイントを見付け、理由を考えることで、「自分だったら」と自己とつないで考える姿が見られた。

▲相手が本当に喜ぶ行為は何かを考え、親切にする事の大切さを十分に感じられていない子供がいた。道徳的な価値に迫るところにもっと時間をかけたり、ロールプレイの際に考える部分を焦点化したりする必要があったのではないかな。

第3学年道徳科「目標を達成するために ～『あきらめたらアカン』～」

学習指導者 藤川 裕人

目標についての質問紙調査の結果や困難を乗り越えた3人の登場人物を知った子供たちは、「自分も困難に負けずに目標を達成したい」という思いをもち、「3人の生き方から、目標を達成するために大切なことを見付けよう」という単元の目標を設定しました。その後、困難な状況の際の気持ちや乗り越え方を想像しながら話し合い、目標達成に必要な大切なことを考えていきました。

西川さんの生き方から、目標を達成するために大切なことは何か考えよう

【見通し】

前時に高橋さんについて学んだことを想起し、今日は西川さんの生き方について考えることを確認しました。なぜその目当てにしたのかを共有する中で、子供たちは、「高橋さんとはまた違う大切なことを見付かるかもしれない」と本時学習することへの意欲を高めていました。その後、「道徳の学び方ポイント」を基に、本時で意識したい学び方を選びました。子供たちは、「前の時間に友達と交流したら新しい考えに気付いたから、今日も友達の考えを大切にしたい」など、自分なりの理由を添えて学び方を選ぶことができました。



【行動】

西川さんが指を動かさなくなったときの気持ちを想像しました。「夢が届かなくなったようでつらい」「自分の価値が分からなくなる」などと、西川さんの苦しい心情に共感しました。その後、クラゲチャートを使って、西川さんが努力を続けられた理由を考えました。「今できることを少しずつ続けた」「応援してくれる人に応えようと思った」など、多様な視点から理由を捉えました。最後に、西川さんの演奏映像を視聴し、「つらさを乗り越えたから心に残る」などと、演奏の背景にある生き方にも目を向けました。



【振り返り】

「学び方」「目標を達成するために大切にしたいこと」「自分とのつながり」の三つの観点で本時の学びを振り返りました。「友達の考えを聞いたから、目標を達成するために今できることを工夫することが大切だと分かった」などと、本時できた学び方を通して目標を達成するために大切なことを表出しました。さらに、「これからは、すぐあきらめずに、できることを探して続けたい」など、本時の学びと自分とをつなげて振り返ることができました。



成果と課題

○努力を続けられた理由を多様に捉えることができた。クラゲチャートを使うことで、「支えてくれる人」「気持ち」「工夫」など複数の観点から考えることができたのではないかな。また、学び方についても正しく捉えることができていた。
▲西川さんの生き方を「すごいな」で終えてしまい、「自分の生活のどんな場面で生かせるか」まで考えが進まない子がいた。自分とのつながりを考えるような問い返しをすることで、より自分とつないで考えることができたのではないかな。

総合的な学習の時間について

1 本校における総合的な学習の時間のねらい

総合的な学習の時間では、「課題設定」から「まとめ・表現」までの探究の過程が繰り返されます。そして、その過程で子供たちは、次に取り組む課題を設定したり、適切な表現方法を選択したりして、自らの学習を調整していきます。また、正解が一つに定まらない課題や、自分たちだけでは解決できない実社会・実生活に根ざした課題を扱うため、複数の視点から考えを持ち寄ったり、学校外の人々を含む多様な他者と関わったりしながら協働的に学ぶ必要があります。

このような特質をもつ総合的な学習の時間では、自己調整や共調整が起きやすいため、自己調整する方法を用いて他者と共に学びを進め合う場として適していると考えます。よって、本校における総合的な学習の時間（未来学習）では、「各教科の学習で経験した自己調整する方法を用いながら、探究的で協働的な学習を行い、自己調整する方法の習得をさらに促すこと」を目指しています。

2 探究的で協働的な学習を充実させるために

探究的で協働的な学習を充実させ、自己調整する方法の習得をさらに促すために、次の二つの手立てを意図的に行いました。

- 探究する意欲を高める手立て
- 他者との関わりを促す手立て

次頁では、本年度の各学年の実践例を基に、これら二つの手立ての具体と、それによって見られた子供の姿を紹介します。

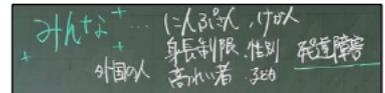


本研究における未来学習の位置付け

未来学習における手立ての具体と実践例

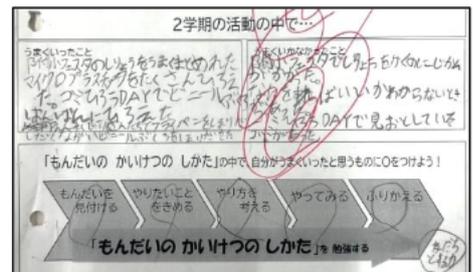
○ 探究する意欲を高める手立て

第4学年の実践では、1学期に特別支援学校の友達と交流した経験を基に、2学期に取り組みたいことを話し合いました。その際、4月に設定した**未来学習の目標「全ての人が自分のやりたいことを実現できる社会を目指して」**を再確認したことで、子供たちは、これまでにできたことと達成したい目標とを比べ、「特別支援学校の友達以外にも困っている人はいると思うよ」「高齢者や妊婦さんも困っていると思うよ。他には…」などと、次に探究したいことを見つけて意欲を高めていました。さらに、**関わり方を考えたい相手を選択できるように**したことで、一人一人の思いを生かせるようにし、探究する意欲をさらに高めました。



関わり方を考えたい相手

また、第3学年の実践では、「**坂出市のごみ問題を解決しよう**」という目標に向けて学びを進めていきました。4月には、まず**未来学習での学び方（問題解決の仕方）を確認**しました。単元の終わりには、**長期的な振り返りを行う場を設定**し、成果と課題に加えて、**探究の過程にも目を向けられるように**しました。これにより「1回目のごみを分析した結果から考えたから、ごみ問題の解決に向けて次にごみ拾いをするよいい場所を決めることができたよ。次は…」などと、自己調整する方法を使いながら学びを進められたことを捉えたことで、そのよさを感じ、次の探究へ向かう意欲を高めていました。



長期的な振り返りの記述

○ 他者との関わりを促す手立て

第5学年の実践では、前年度の未来学習で福祉について学んだ経験を基に、「自分たちも、これまでに学んだことを生かしてみんなを幸せにしたい」といった思いをもち、「**SDGs でみんなを幸せにしよう**」という目標を設定しました。**自分たちの力だけでは達成が難しい目標を設定**したことで、「不要品をリメイクした物を販売してそのお金を募金したいけど、不要品をたくさん集めるには、色々な人に協力してもらわないといけないな」などと、学校外の人々と関わりながら学ぶ必要性を感じていました。さらに、**これまでに学校外の人々と関わった経験を想起できるように**し、依頼する相手を具体的に決められるようにしました。子供たちは、目標の実現につながることを考えて今後の活動計画を立てていきました。



近隣の学校に依頼する様子

また、第6学年の実践では、キャリア教育の一環として「**自分や学校のためになることをしよう**」という目標を設定し、自分や学校のためにどんなことができるかを考え、それぞれが選んだテーマについて探究していきました。附小フェスタでの発表に向けたグループ活動の際は、グループごとに設定した目標の達成に向けて必要なことを考えて計画を立て、それを基に**役割分担できるように**しました。さらに、学習支援アプリを用いてグループごとの共有ノートを作成することで、**集めた情報を共有したり、それぞれの進捗状況を把握したりできるように**しました。このように、**他者と関わりやすい環境を整えたこと**によって、子供たちは自分の役割を果たすだけでなく、「友達は今どこまで進んでいるだろう」などと、共通の目標を解決するために、関わる相手を選んで協働的に学びを進めていきました。



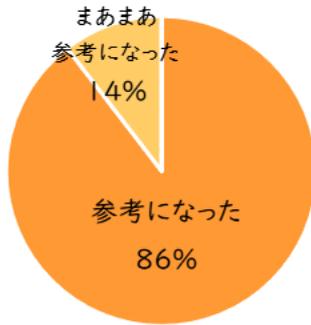
進捗状況が分かる共有ノート

附坂小 わくわく ワークショップ

本年度は、年間 10 回のワークショップを行いました。対面とオンラインを併用して行ったことにより、全国から延べ 360 名(第 9 回まで)の参加申込をいただきました。学校関係者や教職を目指す学生の方などと子供がときめく学びのつくり方について一緒に考えることができました。

1. ワークショップに参加された先生方の声

(1) ワークショップは参考になりましたか。



- 参考になった
- まあまあ参考になった
- あまり参考にならなかった
- 参考にならなかった

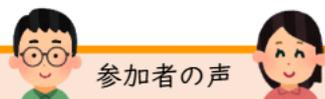
(2) (1)の理由について具体的に教えてください。

- ・自分でもやってみたい内容で、時期的にも、学校に帰って、すぐに実践できるものでよかったです。
- ・困っていることを参加者全員で共有し、協力して解決策を考える時間もとても有意義でした。
- ・先生方と教材だけでなく、普段の思いやこれから挑戦したいことについても話すことができました。学びが深まり充実していました。
- ・ワークショップを通して、今までの自分の授業を振り返ることができました。先生方の実践やその資料をたくさん見させていただくことができてよかったです。



2. ワークショップ概要と参加された先生方の声

内容	(参加者数)	参加者の声
<p>4月11日(金)「教師と子供、子供同士を"つなぐ"ための教師の手立て」(40名)</p>  <p>クラスの温かい風土づくりのために クラスの温かい風土を作るためには・・・</p> <p>☆3つのポイント☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認め合える心の育成 ■ 子供を大切にする大人の姿や発言 ■ コミュニケーションスキルの育成 	<p>40名</p> 	<p>参加者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標を子供たちと共有し、いつでも立ち返ることができるようにしたいと思いました。 ・ダンスを作る際にエッセンスを加える考え方が参考になりました。 ・子供たちと目標を共有して、一緒に表現を考えていくことができそうな気がして、わくわくしています。すぐに学年団で共有したいです。
<p>まず、学級経営について、温かい風土づくりや係・当番の運営の仕方を紹介したり、構成的グループエンカウンターを行い教師の役割について考えたりしました。次に、運動会の表現ダンスについて、構成や振りのアイデアや意欲を継続させ、演技を高め合う工夫を紹介しました。また、指導の仕方のポイントを実際に使って踊ったり、次回の運動会の振り付けを考えたりしました。</p>		



5月11日(金)「明日からできる道徳科の授業づくり」

(53名)



1 特別の教科 道徳って?

【道徳的諸価値の理解】

〇〇は大切だが、なかなか実現できない人間の弱さなども理解すること

人間理解

〇〇は、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

価値理解

〇〇を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は人それぞれ多様にあることを理解すること

他者理解

道徳教育を研究されている香川大学の清水顕人先生をお招きし、道徳科の授業づくりについて考えました。第一部では、道徳科の授業づくりのポイントを『導入・展開・終末』に分けて、清水先生にポイントを伺いながら考えていきました。第二部では、本校が作成した道徳科の授業づくりシートを使いながら、実際の授業をつくりました。

- ・子供たちの中に問いが生まれる仕掛けを意識するのがよいというお話がすごく納得しました。
- ・清水先生のお話より、実践例を提示しながらご説明して頂いたので、とても分かりやすかったです。
- ・自分が聞きたかった評価について、具体的な指標が示されていました。

5月31日(土)「アシストガイド活用研修会」

(76名)



第一部では、附属特別支援学校の坂井聡校長から特別支援教育の基本的な考え方に基づき、なぜ「アシストガイド」が有効なのか、専門的な知見からお話いただきました。第二部では、ソフトバンクの方から、アシストガイドの具体的な機能や使い方、活用事例を紹介していただき、その後、実際に参加者の皆さんと一緒に「予定」や「やりかた」を作るなどして、アプリの使い方を体験しました。

- ・子供の忘れ物が多いので、我が家では持ち物チェックとして活用したいと思いました。
- ・開発している人に、アプリの使い方について直接質問することができたのがよかったです。スタッフの方に丁寧に対応していただけました。
- ・自分の端末で実際に操作しながら使い方を学ぶことができました。

6月24日(火)「特別支援の視点を取り入れた学級経営」

(78名)



ユニバーサルデザインの視点はなぜ教育に必要なか

教師の願い
誰一人取り残さずすべての子供の学びを保障したい

8.8%
通常学級において何らかの特別な配慮を要する児童生徒

ユニバーサルデザインの働きかけ

学習面や行動面で支援を必要としている子供も、そうでない子供も、共に学びやすくなる

参考 第96回 教育研究発表会要項 附属阪出小学校

附属特別支援学校の坂井聡校長をお招きし、特別支援の視点から学級・授業づくりについて考えました。第一部では、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた実践例を取り上げながら、誰もが安心して過ごせる環境づくりについて考えました。第二部では、グループに分かれて普段の学級経営の悩みや工夫を共有し、坂井先生にお答えいただいたり、合理的配慮の具体について伺ったりしました。

- ・具体的な実践紹介から先生方の工夫されている授業の様子が伝わり、具体的で分かりやすく勉強になりました。
- ・坂井先生のお話を聞いて、障害の社会モデル、合理的配慮、授業環境に関して、根本からよく分かり感銘を受けました。
- ・坂井先生のお話に、とても勇気をいただきました。



参加者の声



内容

(参加者数)

7月25日(金)「音楽科・図画工作科の実技講習会&『個別最適な学び』から～ICTの活用～」(14名)



第一部では、音楽科と図画工作科の授業づくりを行いました。実際に楽器に触れたり、作品をつくったりして、その教材・題材の楽しさに触れながら、授業の組み立て方や教材の魅力についてみんなで考えていきました。第二部では、ICTの活用について、実践例から大切にしたいUDの視点について参加者の皆さんと考えたり、デジタル・シティズンシップ教育の視点から、個人情報の取り扱い方についても再確認したりしました。

- ・短い時間の中でわくわくする教材を学習指導要領に則って紹介してくださって大変満足です。来てよかったです。
- ・実際に使った教材や教具を紹介してもらえて、自分が授業をする際のイメージがもてました。
- ・「目指す子どもの姿」に向けて、ICT支援員としてできることを考えていきたいと思います。

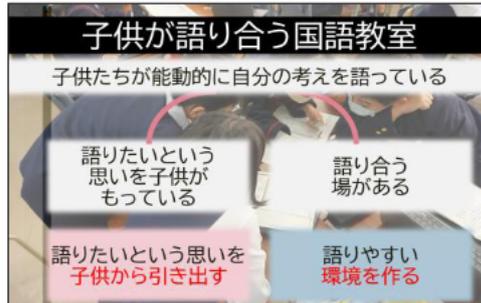
8月1日(金)「体育科・家庭科の実技講習会&『個別最適な学び』から～ICTの活用～」(15名)



第一部の体育科では、ソフトバレーボールを簡易化したゲームを実際に行いながら、どうすれば全ての子供が楽しめて、主体的に参加できる授業となるか考えました。家庭科では、衣生活の領域のポイントについて再確認するとともに、簡単にできるネッククーラーを作りました。第二部では、教科の資質・能力を高めるICTの活用について一緒に考えました。またデジタル・シティズンシップ教育の視点から、「情報を扱う上での責任」について実践例を基に考えていきました。

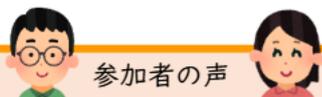
- ・すぐに授業で使えるような作品を展示していたり、その活用の仕方も解説してくださったりしていて、ぜひ取り入れてみたいと思いました。
- ・実際に活動しながらすることで、困ることやうまくいかないことなどについて、子供の気持ちになって考えられました。2学期のポートボールの学習に活用したいです。

10月10日(金)「語り合う国語科授業づくり」(30名)



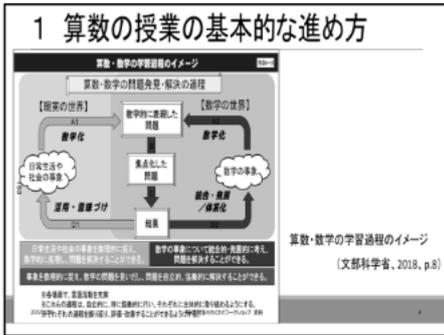
香川大学の浅井哲司先生をお招きし、子供たちが能動的に語り合う国語科の授業づくりについて考えました。第一部では、「語りやすい環境を作る」と「語りやすい環境を作る」という2点について実践例を紹介しました。第二部では、「分かるから楽しい話し合い指導」と題して、浅井先生の実践例も交えて子供が主体的に話し合うことができるような手立てを考えました。

- ・国語では取り扱う教材が予め決まっている中、子供たちがどのように主体的に学んでいくとよいのか課題設定に悩みますが、考えるきっかけをいただきました。
- ・具体的な実践が多く、分かりやすかったです。今年度自分がした授業と比べながら話を聞くことができました。



11月28日(金)「算数授業の悩みを解決しよう」

(22名)

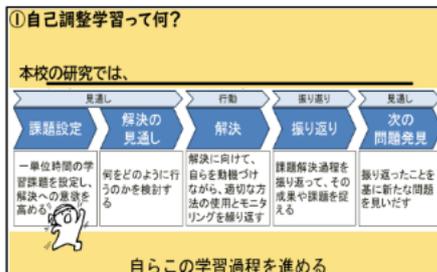


香川大学の松島充先生をお招きし、本校算数科担当の教諭と共に、主体的・対話的で深い学びのある算数科の授業づくりについて考えました。授業の基本的な進め方について、「問題から課題を生み出すには」「見通しをもつには」などといった学習過程ごとの手立てについて本校の実践を交えながら考えていきました。実際に子供の立場で手立てを体験し、学びを深めることができました。

・ 今後は、授業づくりの際に、子供に何を気付かせたいのか、本時のめあてで達成させたいことは何かを視点にしていきたいと思いました。

・ 具体例を挙げながら説明してくださったので、とても分かりやすかったです。周りの人と考える時間もあったので、より学びを深めることができました。

1月23日(金)「共に学びを進め合う子供を育てませんか?~共調整学習について~」(32名)



香川大学の岡田涼先生をお招きし、本校研究部と共に、本校が研究で取り組んでいる「自己調整学習」について考えました。

本校が大切にしている学習過程と自己調整学習の理論について、実践事例等を通した解説を基に考えました。その後、現場で抱きやすい悩みについて本校の実践を交えながら、どのように授業していけばよいか検討しました。「一人で進める学習なのか」という疑問に対しては、他者の学び方を参考にしながら自分の学びを調整していく「共調整」の姿が重要であることを確認しました。また、「低学年では難しいのではないか」という点については、発達段階に応じた適切な手立てを講じることで、どの学年においても自己調整を促すことが可能であり、自己調整の視点で子供の姿を見取っていくことの大切さを確認しました。あわせて、自律性支援や心理的安全性を高める学級経営、達成意欲を高める目標共有の工夫についても理解を深めました。ワークショップ全体を通して、子供が学習のサイクルを回していけるようにするための教師の役割や手立ての在り方を改めて問い直し、本校の推進する自己調整学習について深く考えるよい機会となりました。

・ 自己調整という言葉聞いたことはあるが、自己調整とは何か、子供が何をしたら自己調整なのかなど、あまり分かっていなかったため、実践例を踏まえながら具体的に教えていただいて勉強になりました。

・ 自己調整の手立てや見取る視点、自己調整のサイクルがとても学びになりました。

・ 明日からの授業では、ズレや疑問から目当てを立て、解決の場面では、教具を工夫したり友達との協働学習を取り入れたりして、自己調整できる環境を整えたいです。

2月27日(金)「4月のスタートに向けて幼小連携、スタカリ、かけはし期」

※本会は執筆段階では未実施であるため、提案予定の内容を記述する。

香川大学で幼児教育を研究されている、本校の片岡元子校長と共に、1年生が安心して小学校生活を始められるような、カリキュラムの作成や時間のもち方を考えます。スタカリは学校全体で取り組む大切なカリキュラムです。子供理解と指導に生かせる、幼稚園との互惠性のある連携について、実践を基に話し合います。

次年度の研究に向けて

本年度は「共に学びを進め合う子供の育成」を研究主題に、子供が自己調整する方法を習得し、他者と共に自ら学びを進めていく姿の実現を目指してきました。そして、子供の実態を基に単元や題材で目指す姿の具体を設定し、目標達成への意欲を高める手立てや方法の習得を促す手立ての具体や、その効果を明らかにしてきました。また、前回研究の課題を踏まえ、他者の存在が自己調整する方法の習得をさらに促すという仮定の基、他者との関わりを促す効果的な手立てについても研究を進めてきました。

質問紙調査の結果を見ると、「一緒に勉強すると、自分も友達もより分かる」「いろいろな意見や考えをもつ友達と一緒に勉強するのが楽しい」の項目において、9割以上の子供たちが肯定的に回答しており、他者と共に学ぶことの意義や価値を実感している子供が多いことが明らかになりました。これは、他者と関わる必要感をもてるようにしたり、他者と関わりやすい環境を整えたりするなどの手立てによって他者と関わることを促し、一人で取り組む時よりも「より解決すべき課題が設定できた」「納得できる考えをつくることができた」「自分たちの学びを正確に振り返られた」などの経験を繰り返してきたことで、他者と関わるよさを自覚していったからだと感じています。



一方で、「先生の指示がなくても、勉強を進めていけると思う」という項目については、他の項目と比べると課題が見られました。次年度も、自己調整する方法の具体について、より発達段階や教科に応じたものを探るとともに、方法の確実な習得につながる手立てについて研究を進めていきます。また、他者と共に学習過程を進めていく姿は見られたものの、全ての子供たちの資質・能力の高まりが保証されていたかといった点についても、引き続き研究が必要だと感じています。自己調整する方法の習得と共に、実践を通して見えてきた教科固有の学び方についても、習得できるようにする手立てを考えていきたいと思えます。

あ と が き

教 頭 毛利 二実子

本年度は共に学びを進め合う子供の姿を求めて、23本の授業を公開しました。110名を超える先生方にご参加いただき、本校の研究の中心である自己調整や共調整、授業づくりなどについて、討議の中で忌憚のないご意見を賜りました。また「附坂小わくわくワークショップ」には、延べ360名もの方々にご参加いただきました。参加者の皆様には、本校の研究について知っていただくとともに、ご自身の学級経営や授業づくりに生かしたいというお声をいただきました。本校の研究をさらに推進していく上で、また、多くの先生方とつながり、地域貢献できる研究を目指している私たちにとって大きな励みとなりました。職員一同、感謝しております。

次年度は第105回教育研究発表会を令和9年1月29日に開催予定です。研究発表会でこれまでの研究の成果をお伝えし、公立校の先生方に新たな学びをご提案できるよう、研究に取り組んでいく所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

編 集 委 員

好井 佑馬 東 泰右
岡根 平 井下 修一
藤川 裕人 半澤 友博

香川大学教育学部附属坂出小学校

〒762-0031 香川県坂出市文京町二丁目4番2号
TEL : 0877-46-2692 FAX : 0877-46-5218
E-mail : sakaide-1@kagawa-u.ac.jp



【本校 HP】



【本校 Instagram】

過去の指導案や、研究の歩み、
日々実践の様子をご覧いただけます。